

科目名	国語文法論			担当教員	今井 亨	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、国語科の教育内容に関わる事項について講義する。					
到達目標及びテーマ	(１) 通説となっている原則・術語を正確に説明することができる。(知識) (２) 通説の原理・問題点を的確に把握することができる。(論点) (３) 学問的に有力な論説を知り、究明のヒントにすることができる。(立場・学界動向) 文法論とその周辺領域について					
授業の概要	日本語の文法について、日本語学・日本語教育学で通用している体系に基づいて概説する。中学校までに習う国文法にもとづく体系を批判的に捉えつつ、文法史や文法学説史、国語科教育や日本語教育の観点から補強する。					

授業計画	
第1回	国語学・国語教育学・日本語教育学の各言語観と文法論
第2回	品詞分類
第3回	日本語文法の用語・日本語教育の文法用語
第4回	日本語文の構造
第5回	「は」と「が」
第6回	自動詞と他動詞
第7回	ヴォイス
第8回	アスペクト
第9回	アスペクトの観点による動詞分類
第10回	テンス
第11回	モダリティ
第12回	複文
第13回	談話・肯否
第14回	まとめ（テストを含む）
第15回	敬語

事前学修	2時間	教科書各章冒頭にある「実力診断クイズ」を読んで、どういう文法的事象が取り上げられているか、国文法ではどういう説明がなされているかを確かめておく。
事後学修	2時間	授業時に扱いきれなかった教科書掲載の問題を解いて、学修内容の理解を深める。文法的事項に関して、各校種でどういう学習指導につながるのか、特に「読む」「書く」「話す」「聞く」言語活動にどう生かせるのかを考える。
フィードバックの方法	授業時に適宜指名して、理解度を確かめる。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	100％	文法的な見方・考え方ができているか。
定期試験	0％	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本語教師をめざす人のための スモールステップで学ぶ 文 法	原沢伊都夫	スリーエーネットワーク	9784883199273	2023年
参考資料	授業中に指示する。			